

今年の最終号は、檜葉町の紹介です。

「こころ、つなぐ、ならば、明日へ!! 檜葉町 町制施行 60 周年（還暦）」

「檜葉町は 1956（昭和 31）年 9 月 1 日に木戸村、龍田村が合併し、人口 1 万 657 人、総面積 103.64 平方キロの新たな町として誕生した。町名は、中世までこの地を治めていた檜葉氏に由来する。

今年 9 月 1 日現在の人口は 7,340 人、世帯数は 2,820 戸。太平洋に面した浜通りのほぼ中央に位置し、阿武隈山系が水源の木戸川と井出川が町を東西に流れ、太平洋に注ぐ。海、山、川の資源に恵まれた自然豊かな魅力あふれた町である。

2011（平成 23）年 3 月 11 日に発生した東日本大震災と東京電力福島第 1 原発事故で避難を余儀なくされ、町は姉妹都市の会津美里町、次いでいわき市に役場機能を置いた。昨年 9 月 5 日に原発事故による避難指示が解除され、帰町への動きが本格化。「こころ、つなぐ、ならば、明日へ!!」をキャッチフレーズに、町民が心を一つに「新生ならば」の創造へ取り組みを加速させている。

復興拠点 前に着々

町が復興拠点の一つとして位置付け、北田地区の国道 6 号沿いに計画しているのが「コンパクトタウン」。地震、津波で被災した町民向けの災害公営住宅や、移住希望者なども想定した新住民への受け入れにつなげる分譲住宅地、商業施設を一体的に整備する。隣接地には町のあおぞら子ども園（保育園）、地域医療を担う県立大野病院附属ふたば復興診療所（ふたばリカーレ）、蒲生歯科医院があり、利便性の高く住みやすいまちづくりを目指す。

古里再生へ光

町のシンボルとも言える天神岬スポーツ公園は除染が終わり、子ども達が楽しめる遊具を更新するなど環境が整った。町内や太平洋を見渡せるロケーションから、震災の教訓を伝える貴重な場所として、多くの視察団が足を運んでいる。（ちなみに、小池都知事は、長沼ボート場（宮城県登米市）の視察に来て、地元をガッカリさせて、序でに天神岬に立ち寄りました。ボート場でボートに乗ってパフォーマンスすることが、復興五輪なのか）。

震災前、本州有数のサケ遡上地として知られた木戸川。震災の津波で大きな被害を受けたサケのふ化場は全ての設備の復旧が完了した。地元の木戸川漁協は来春、施設でふ化したサケの稚魚 1 千万匹の放流を目指しており、震災前の美しい故郷を取り戻す動きが目に見えて進みだした。（「福島民友」16 年 9 月 3 日付け）

| |
|--|
| 11 月 22 日早朝の地震（震度 5 弱）では、見舞いの電話やメールをもらい、有難うございました。まだ忘れられていないことを実感しました。 |
|--|

【檜葉町町制施行 60 周年記念式典 挨拶する松本幸英町長（9 月 4 日 檜葉町コミュニティセンター）】



【檜葉町と言えば、全国に知られている（？）木戸川のサケ漁】



私が檜葉町に来て、早や9ヶ月が経ちました。
拙い「双葉通信」を読んでいただき、有難うございました。
年賀状は省略させていただきます。「双葉通信」新年号でお会いしましょう。